

「良心」と経済性

1. 大災害に思う

大震災の影響で節電が叫ばれる中、開催が危ぶまれていたM-Tech(機械技術要素展)が今年も開催される事になった。そのテーマの一つが3A(安全・安心・安定)だそうだ。確かに、想定外の大震災・大津波・原発事故なので「安全」「安心」「安定」というキーワードの見直しが必要になる。どう見直しか・・・それは基準の見直しなのだ。全ては「基準」との相対性なのだ。

「未曾有」とか「想定外」と言うが、それらは今までの「基準」との比較でしか過ぎないのだ。M9という大地震は、スマトラなどでそれよりも大きな物が起こっており、地勢学的にも日本周辺は大地震の可能性が高いのは周知の事なのだ。「大津波」も過去の地層から分析して、今回の津波以上のものが過去にあったことが判っているのだ。「原発」に至っては、直近でも国会で同じことを指摘され、さらに、菅首相は模擬訓練の指揮をとっているにも関わらず、その内容すら覚えていないという体たらくなのだ。こう書けば、全ては「人災」という論に傾いてしまうが、「基準」は人が決めることなので「自己責任」と考えるのだ。

「物づくり」という事で3A(安全・安心・安定)という尺度は非常に重要だが、それは想定する基準があって初めて判断されるものなのだ。何との比較かと言えば、悲しいかな「コスト」との戦いなのだ。金をかければ3Aは高い基準でクリアされるのだが、そういう物は、今となっては「軍事」だけに通じるもので、公共という物でもコスト・パフォーマンスという言葉で判断されるようになってしまったのだ。まして、一般の商品では「価格競争」に晒されているので、後回しになりがちなのだ。そういう経済性追求の風潮が今回の大災害につながったのだ。

生産者の良心というが、農業でも農薬を使ったりして「儲け」に走るのが人情であるが、電力という地域独占の公共的事業を行なう電力会社が「良心」を失っては大変なのだ。同じ原発でも東北電力の女川原発は設計者の良心で少し高台に移動させたので、今回の大津波でも難を逃れたという。まさに、技術者の良心が経済に勝ったのだ。

私は、「良心」というものを見直したい。政府の行動、東電の行動、天皇陛下の行動、ボランティアの行動と各種の行動があるが、感謝されているのは自費でボランティア活動している方々や慈愛に満ちた天皇陛下の行動なのだ。政府や東電の行動はチグハグで隠蔽体質をモロに出しており、経済性優先の姿勢では支持もされる筈がない。人災なのだから、まず、身を切ることが重要だのだが、中途半端な対応なのだ。保身が目に見えている。

ちょっと右翼的な方向になっているが、3A(安全・安心・安定)はコスト・パフォーマンスが優先するのでは「他人を感動させる」パワーにならないという事を主張したいのだ。身を捨てる覚悟こそ重要である。「物づくり」においても3Aを見直す絶好のチャンスなのだ。「コンサルタント」という我が身においても脱コスト・パフォーマンスが重要なのだ。これを心にしっかりと書き留めて終わりたい。

【まとめ】

1. 3Aは基準との相対性で決まるが、その判断はコストでは生き方を間違える
2. 「良心に照らす」という事は恒に重要だ。
3. その「良心」には経済性に打ち勝つ信念が重要だ。

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】1.